

第2学年国語科学習指導案

児童 2年1組 男子18名 女子15名 計33名
指導者 伊藤 眞由美

- 1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう
教材名 「サンゴの海の生きものたち」(説明文)

2 児童と単元について

(1) 児童について

児童は1学期の「たんぼぼのちえ」で、時間的な順序に気を付けながら説明的な文章を読み、たんぼぼが知恵を働かせている様子やそのわけについてまとめる学習をしてきた。また、挿絵や文から、分かったことや不思議に思ったことを中心に課題作りをし、それに沿って、学習を進めていくことも学んでいる。読み深める段階では、視点に沿って読み進め、主語や述語に気を付けながら様子について書いてある文を見つけたり、文末表現に着目し、たんぼぼが知恵を働かせるわけを見つけたりすることができるようになった。しかし、主語や述語から知恵を働かせる様子をとらえたり、大切な言葉を見つけたりすることはできても、全体をおおまかにとらえることや、文と文のつながりに気をつけながら読む事に関しては、十分とは言えない。

7月に実施された国語科意識調査では「物語や説明文の学習が好きですか」や「進んで国語の授業に参加していますか」の質問に、概ねの児童が肯定的にとらえていることから、国語の学習に意欲的に取り組んでいこうとする姿勢も見られる。

(2) 単元と教材について

本単元「だいじなところに気をつけて読もう」では、書かれている説明の順序に気を付けながら読むこと、問いかけの文から答えにあたる文章を正しく読み取ることをねらいとしている。

本教材「サンゴの海の生きものたち」は、サンゴのきれいな海の中で生き物の違いに応じた共生について順序立てて説明している文章であるので、生き物に強く関心をもっている児童にとっては、興味深く学習を進めることができる内容である。未知の海に住む生き物たちが、次々に登場してくることから、興味を深めながら読むこともできる教材である。

本教材は、1話題提示、2具体例、3具体例、4まとめ、という文章構成である。問いかけの文「どんな生きものたちが、どんなかかわり合いをしているのでしょうか。」により、読み進める目的がとらえやすくなっており、そこに着目しながら共生の関係を読み取っていくことができる。しかし、これまで読んできた説明文に比べ、登場する生き物の数が多く関係も入り組んでいるため、中心的な事柄を読み取れないでしまう児童がいることも予想される。また、興味をひく教材であるため、話し合いの際に自分の知識に基づく発表をする児童も予想され、読み取りという活動から離れてしまうことも考えられる。そこで、写真を手がかりにしながらも、文章から読み取っていく活動を中心に据えて進めたい。

さらに、「生きものふしぎはっけんブック」を作ることを目的にすることで、意欲的な読みにつなげ、内容の大体を読み取る力を付けるとともに、他の生き物にも興味をもち、楽しんで読書しようとする態度を育てていくことができるのではないかと考える。

(3) 付けたい力と読みの方法 【付けたい力】 **読みの方法**

【事柄の順序に気を付け、内容の大体をとらえる力】

主語と述語の関係に注意して読む。 問いと関連付けて説明を読む。
 写真と文章とを照応して読む。
 ・問いの文 ・キーワード

内容の大体をとらえるために、まず文章のおおまかな構成をつかませたい。内容から教材文を四つの大きなまとまりに分け、おおまかな文章構成をつかませることで内容の読み取りがしやすくなる。本教材で述べられている事柄は、問いかけの文から、「生き物の特徴」と「かかわり合い」の二点であることが分かる。この点を意識した学習活動を展開していくことで文章の大体を理解することができることを確認し、読み取りの観点を明確にしたい。

教材を読み深める段階では、書かれている事柄の順序に従い、「特徴」を読み取った後で、「かかわり合い」をまとめていく。具体的な読み取り場面においては、まず、それぞれの文が何について書かれたものかをつかませる必要がある。その際、文の主語を見つける活動を取り入れる。本教材文では、「イソギンチャクは」「クマノミは」など、主語を容易に見つけられる文もあるが、「細長いたくさんのしょく手をゆらゆらさせています」など、主語が明示されていない文も多い。したがって、指導にあたっては、前の文とのつながりや、述語から文の主語は何かを考えさせる必要がある。また、書かれている事柄について写真と照らし合わせる活動を取り入れることで、内容理解の助けとなるであろう。学習シートに、「特徴」や「かかわり合い」を分かりやすくまとめたり、読み取ったことをふまえて、ふき出しや見出しを書いたりする活動を通して、内容の大体をとらえることができるものとする。

さらに、教材文で学習した読みの方法を生かして読み取ることができるような補助教材を活用し、自力で読むことができたという達成感を味わわせたい。

3 単元の目標と評価規準

	単元の目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	海の生き物についての読み物に興味をもち、かかわり合いを読み取ったり、他の本を読んだりしようとする。	・海の生き物どうしのかかわり合いについて書かれた読み物を興味をもって読もうとしている。
読む能力	海の生き物の特徴を読み取り、その特徴を生かして、互いに役に立っていることを事柄の順序を考えながら、読み取ることができる。 ＜読むこと イ＞	・事柄の順序を考えながら、内容の大体を読み取っている。
言語についての 知識・理解・技能	片仮名を正しく読んだり、書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使うことができる。 ＜言語事項 イ(ア)＞	・片仮名を正しく読んだり、書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使っている。

4 単元の指導計画と評価規準 (11 時間)

段階	時	学習活動	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
見 通 す	1	題名についての話し合いやビデオ視聴を通して、教材文を読むことに対する意欲をもつ。	海の生き物について思ったことを進んで発表しようとしている。(観察・学習シート)		

	2	教材文を通読後、初発の感想を話し合う。新出漢字や語句の意味を確認する。	「サンゴの海の生きものたち」を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことを書いたり発表したりしようとしている。(観察・学習シート)	「サンゴの海の生きものたち」を読み、初めて知ったことや不思議に思ったことを書いている。(学習シート)	新出漢字や片仮名を正しく読んだり書いたりしている。(学習シート)
	3	話題の提示と問いかけ、まとめの文からおおまかな文章構成を知り、学習への見通しをもち「生きものふしぎはっけんブック」の表紙作りをする。	内容に興味をもち、進んで表紙作りをしようとしている。(観察、表紙カード)		
深める	4	イソギンチャクとクマノミの特徴を読み取り、「生きものふしぎはっけんブック」にまとめる。		主語と述語の関係に気を付けながら、それぞれの特徴を読み取り、まとめている。(学習シート)	
	5 (本時)	イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取り、「生きものふしぎはっけんブック」にまとめる。		イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取り、それが分かるようにふき出しに書いている。(学習シート)	
	6	ホンソメワケベラと大きな魚たちとのかかわり合いを読み取り、「生きものふしぎはっけんブック」にまとめる。		ホンソメワケベラと大きな魚たちとのかかわり合いを読み取り、それが分かるようにふき出しに書いている。(学習シート)	
まとめる	7	これまでの学習を振り返り、学習したことを確かめたり感想を書いたりする。	これまでの学習を振り返り、進んで感想を書こうとしている。(観察・学習シート)	これまでの学習を振り返り、感想を書いている。(学習シート)	
	8 9	学習したことを生かし、サンゴの海の生き物について書かれた補助教材を読む。		補助教材を読み、生き物の特徴やかかわり合いをまとめている。(学習シート)	
広める	10 11	生き物について書かれた本を読み、「生きものふしぎはっけんブック」にまとめ、完成させる。	生き物について書かれた本を進んで読み、分かったことを書こうとしている。(観察・学習シート)		片仮名で書く語を文や文章の中で、正しく使っている。(学習シート)

5 本時の指導（ 5 / 1 1 ）

（ 1 ） 本時の目標

イソギンチャクとクマノミの互いに守りあっているかかわり合いを読み取り、それぞれの立場からふき出しに書くことができる。

（ 2 ） 本時の評価の観点と具体的評価規準

観点 \ 具体の評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への手立て
読む能力	読み取ったことをふまえて、互いのかかわり合いが分かるように、自分の言葉を入れながらふき出しに書いている。 例)クマノミ～ イソギンチャクさん、いつもぼくたちを大きな魚から、まもってくれるので、ぼくたちはあんしんしておよぐことができるよ。 イソギンチャク～ クマノミさん、カチカチと音を立てて、小さい魚をおいはらってくれるので、食べられなくてすむよ。	本文に出てきた言葉をもとに、かかわり合いが分かるように、ふき出しに書いている。 例)クマノミ～ イソギンチャクさん、いつもぼくたちを大きな魚から、まもってくれてありがとう。 イソギンチャク～ クマノミさん、カチカチと音を立てて、小さい魚をおいはらってくれて、ありがとう。	板書をもとに、それぞれの生き物にとって良いこととかかわり合いについて確かめさせる。

(3) 展開

段階	学習活動 発問 ・ 期待する児童の反応	教師の関わり方 ・ 留意事項 評価
見通す 5分	1 前時の学習を振り返る。 2 学習課題を確認する。 クマノミとイソギンチャクのかかわり合いを読みとろう。 3 読みの視点を持ち、学習の見通しをもつ。 ・クマノミにとってよいこと ・イソギンチャクにとってよいこと	・クマノミとイソギンチャクの体の仕組みや特徴について、掲示を使い簡単に振り返らせる。 ・本時は、 段落について読み取ることを確認させる。 ・読みの視点は、「気をつけること」として児童に提示する。
深める 37分	4 学習場面を音読する。 (1) 学習場面を音読する。 5 内容を読み取る。 (1) クマノミにとって良いことを読み取る。 イソギンチャクといるとクマノミにとってどんな良いことがあるのですか。 ・クマノミを食べる、大きな魚が近づいてこないことです。 ・イソギンチャクの中にいると安全なことです。 なぜ大きな魚は、近づいてこないのですか。 ・イソギンチャクが怖いからです。 ・イソギンチャクの触手にどくのはりがあるからです。 ・どくのはりでさされるからです。 クマノミにとって良いことを学習シートにまとめましょう。 (2) イソギンチャクにとって良いことを読み取る。 クマノミといるとイソギンチャクにとってどんな良いことがあるのですか。 ・イソギンチャクを食べに来る小さな魚を追い払ってもらえることです。 ・カチカチと音を立てて小さい魚を追い払ってもらえることです。 イソギンチャクにとって良いことを自分でまとめてみましょう。	・視点に気をつけながら 段落を音読させる。 ・段落を音読させる。 ・大きな魚に食べられないのはイソギンチャクの中にいるからであることを確かめる。 ・食べられないことが、クマノミにとっての安全であることを確かめる。 ・クマノミにとって良いことを確かめ、サイドラインを引かせる。 ・前時に学習した特徴について振り返らせる。 ・クマノミにとって良いことをみんなで確かめながら学習シートにまとめさせる。 ・段落を音読させる。 ・サイドラインを引かせる。 ・どのように音を立てるのか疑問に思う児童もいると思われるので、簡単に説明をする。 ・みんなで確かめたことやクマノミでのまとめかたを参考に、自分でまとめさせる。

	<p>6 一緒にいると良いことをふまえ、相手に対する思いをふき出しに書く。 それぞれの生き物になって相手にお話をしてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書をもとに、クマノミにとって良いことイソギンチャクにとって良いことを振り返り、互いにかかわり合っていることを確かめ、教科書中の言葉を使い見出しをつけさせる。 ・書き始めは、相手を意識させるために、それぞれ相手の生き物の名前からにさせる。 <p>読み取ったことや教科書の言葉をもとに、ふき出しに書くことができたか。 (学習シート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかわり合いが分かるように記述をしていた児童を指名し、発表させる。
<p>3分 まとめる</p>	<p>7 まとめの音読をする。 8 次時の学習について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書をもとに本時を振り返り、一斉音読をさせる。 ・学習計画表をもとに確認させる。

(4) 板書計画

まもり合っているクマノミとイソギンチャク

イソギンチャクの
とくちょう
・細長いたぐさ
のじよく手
・どくのほり

クマノミのとく
ちょう
・オレンジ色
・ねばねばしたえ
きであわわて
いる

クマノミとイソギンチャクの
写真

イソギンチャクにと
つてよいこと
・カチカチと音を立てて、小さな魚をおいはらってまらえる

クマノミにとって
よいこと
・イソギンチャクの中にいれば、大きな魚が近づいてこないであんぜん

気をつけること
・クマノミにとってよいこと
・イソギンチャクにとってよいこと

だいじなところに気をつけて読もう
サンゴの海の生きものたち もとかわ たつお
クマノミとイソギンチャクのかかわり合いを読み
とろう。